

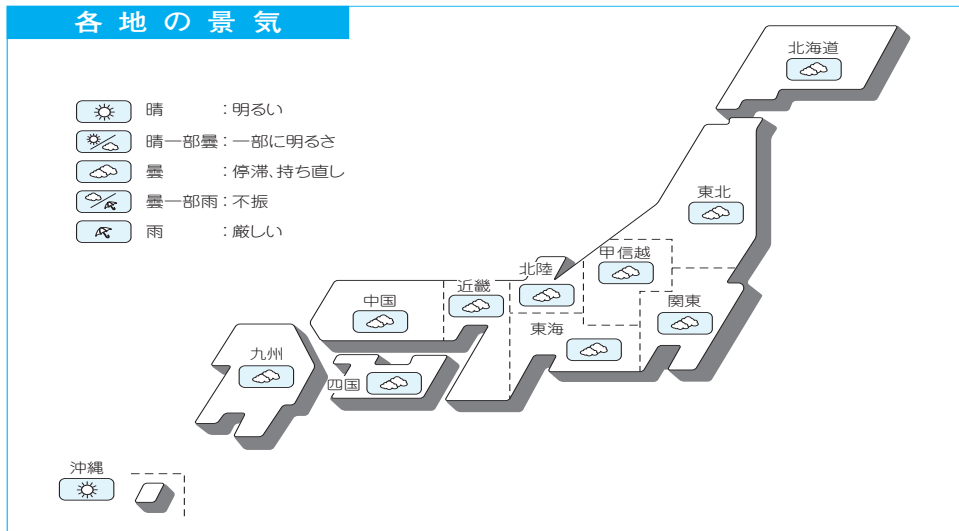
全国地方銀行協会

地方経済天気図

(平成26年10月発表分) から

個人消費や生産に力強さがみられず、足踏み感

1. 各地の景況感



- 甲信越、近畿、中国…個人消費は乗用車販売が減少するなど、総じて盛り上がりには欠ける。
- 関東、四国…輸出は船舶、自動車、自動車部品などが減少。住宅建築は着工件数が減少し、弱含み。
- 北海道、東北、東海…生産は電気機械が増産の一方、輸送機械が減産となるなど、全体として足踏み。公共工事は足許一服。
- 北陸、九州…設備投資は製造業で能力増強を図る動き。輸出は一般機械、電気機械が減少。
- 沖縄…公共工事が増加したほか、観光も好調。

2. 近県「現在の景況」

<p>「宮城県」 全体として景気は、一部に弱い動きがみられるものの、震災復興需要などに伴い経済活動は総じて高水準で推移しており、基調としては緩やかに回復している。</p>
<p>「山形県」 消費税率引き上げの影響などにより、一部に弱い動きがみられるものの、総じてみれば持ち直しの動きが続いている。</p>
<p>「新潟県」 一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復している。</p>
<p>「栃木県」 緩やかに回復している。</p>
<p>「茨城県」 県内経済は、横這いで推移している。</p>

3. トピックス（東北・近県）

〔青森県〕

弘前市がまとめた、9月に起きたリンゴの降ひょう被害の調査結果によると、被害面積は計460ヘクタールで、同市の2013年産リンゴ結果樹面積8,445ヘクタールに対し5.4%、品質低下による被害額は3億4,348万1,000円に達した。

〔岩手県〕

岩手経済研究所が7月に実施した「いわて景気ウォッチャー調査」（回答企業100社）によると、3ヵ月前と比較した県内景気の判断指数は46.0となり、前回（48.8）に比べ2.8ポイント低下し、景況感の判断の分かれ目とされる50を2期（6ヵ月）連続で下回った。県内の景気ウォッチャーは景気の現状について復興需要などによる下支えはあるものの、消費増税前の駆け込み需要の反動減や増税後の買い控えにより景気の減速が続いているとみている。

〔秋田県〕

県は、来月6日、県産牛の知名度向上と販売力強化を図るため、「秋田牛」ブランドを立ち上げる。統一名称で県産黒毛和牛を出荷し、県外の消費者にアピールする狙い。10月～来年3月の間、県内外にてPRイベントを開催する。県畜産振興課によると、県産黒毛和牛には現在、秋田錦牛、羽後牛など25種類あるが、多くは全国販売するには出荷頭数が少ないことが課題となっている。今後は県産牛を徐々に「秋田牛」ブランドへ切り替えて出荷頭数を確保し、県外への販売力を強化する。

〔宮城県〕

文部科学省は、東北地方における医学部設置にかかる構想選定結果を発表した。大学医学部の設置先には、学校法人東北薬科大学が選定された。同大学の構想では、入学定員は100名程度、うち

10名程度は東北地方出身者限定の「地域特別選抜枠」として選抜するほか、奨学金制度の充実も図る。今後、同大学では「東北地方における医学部設置認可に関する基本方針（復興庁・文部科学省・厚生労働省決定）」に基づき、設置準備を進めることとしており、平成27年度の開設を目指す。

〔山形県〕

山形銀行が今年8月に実施した「やまぎん企業景況サーベイ（2014年7－9月）」（回答社数511社）によると、県内企業の業況判断BSIは、前回調査（2014年4－6月）に比べ+4.0ポイントの6.5で2期ぶりに上昇。ただし、前回調査の予想を下回った。製造業は+2.7ポイントの15.2、非製造業は+4.6ポイントの△1.1でともに上昇。先行きには、今回調査に比べ+2.2ポイントの8.7と、小幅ながら2期連続で上昇する見込み。

〔新潟県〕

新潟県酒造組合は9月26日に香港で清酒の商談会を開催した。商談会には、県内酒蔵の3割に当たる27の蔵元が参加し、現地の飲食店関係者や輸入業者に県産の清酒を試飲してもらいながら、米の産地や価格などについて詳しい説明を行った。香港は日本の農水産物や食品の最大の輸出先で、日本料理店の増加を背景に和食に対する注目度も高まっている。県酒造組合では、蔵元自らが現地に足を運ぶことによって県産清酒の輸出拡大に弾みをつけたいと考えている。

〔栃木県〕

栃木県は12日、2014年夏季一時金要求・妥結状況調査を公表した。有効回答128労組による妥結額は全産業平均で686,360円。前年に比べ36,591円（+5.6%）の増加となった。

（出所：全国地方銀行協会地方経済天気図10月分より抜粋）

（担当：斎藤）